「大阪府 SDGs 有識者会議」（第１回）
議事録（メモ）

■ 有識者　：（五十音順）

・川久保 俊 氏　　（法政大学 デザイン工学部 教授）
日時：令和３年 10 月 21 日（木）13:00～15:00
場所：オンライン

・草郷 孝好 氏　　（関西大学 社会学部 教授）
日時：令和３年 10 月 19 日（火）10:00～12:00
場所：関西大学

・田和 正裕 氏　　（国際協力機構（JICA）関西センター シニア・アドバイザー）
日時：令和３年 11 月８日（月）13:30～15:30
場所：独立行政法人国際協力機構 関西センター

・羽根田 みやび 氏　（吉本興業ホールディングス株式会社 SDG 推進本部本部長）
日時：令和３年 10 月 27 日（水）10:30～12:30
場所：オンライン

・村上 芽 氏　　（株式会社日本総合研究所 シニアスペシャリスト）
日時：令和３年 10 月 26 日（火）10:00～12:00
場所：株式会社日本総合研究所 大阪本社

※新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン及び個別訪問の方法により実施

■ 次　第　：１．SDGs 認知度調査（Q ネット・2021 年９月実施分）の結果報告
２．2022 年度の大阪府の取組の方向性

■ 議事録

（川久保 俊 氏）

・SDGs の認知度が上がったこと自体は喜ばしいが、SDGs ウォッシュの増加には危機感がある。
・SDGs に取組むと宣言しつつ、既存の取組みにゴールを振り分けるだけで、今までと何も変わっていない事例が生じている。
・SDGs の宣言・登録・認証制度についても、SDGs ウォッシュを助長する制度となっていないかといった視点を加味して運用する必要がある。
・企業の中には、SDGs はポーズだと考える企業が少しずつだが出てきており、SDGs を矮小化して認識する動きもある。
・大阪府が、SDGs の理解を深めるというところに軸足を切り替えることに賛成。SDGs を本当に理解している人を少しずつでも増やし、本当のアクションに繋げていくことが重要。
・大阪は先進的な地域と考えているので、JICA（関西 SDGs プラットフォーム）等と連携しながら、活動を PR していくと全国の成功事例として注目されると思う。
・企業だけでなく、SDGs 未来都市についても同様で、毎年 30 都市が増えるため、SDGs 未来都市のブランド力が低下し、目立ちにくくなっている。
・SDGs ウォッシュをいかに防ぎ、本当に頑張っている方々にスポットをあてていくか。また、そういった所を評価していくという動きが重要と考える。
・そのため、大阪府のように未来都市計画を自分たちで作り、一つひとつ取組みを進めている姿勢は、私としても応援したいと思っており、大阪府の取組みが他にも伝播していくと良いと考えている。
・テレビで SDGs の取り上げが増えているが、17 個のゴールしか見えないため、具体的に何をしていいか分からず行動に繋がっていないと感じている。169 のターゲットまで意識し、そのために何をすべきか考えることが重要。また、その進捗は指標を用いてきちんとフォローアップとレビューをするべきである。
・国でも指標という点に注目している。国では本年 7 月に VNR（ Voluntary National Review）を国連で発表しており、今後は VLR（Voluntary Local Review）の動きも加速していくと言われている。自治体では、愛知県蒲郡市がローカル指標の作成に向け動き出している所もある、そうした流れも注視していただきたい。

（事務局）

・来年度は、理解を深めていくところに注力しながら、中小企業の取組みの後押しもしていきたいと思っている。企業には、SDGs 宣言するだけでなく、具体的な取組みを行っていただくことや、ゴールとの紐づけ、進捗状況の管理等が重要だということを伝えていきたいと考えている。
・大阪 SDGs ネットワークでは、勉強会の開催や連絡先の共有を通じた横のつながりの強化により、各地域による連携の促進や、地域の実情に合わせた SDGs の活動につながることをめざしている。このような役割も担いながら、関西 SDGs プラットフォームと連携していきたいと考えている。
・また、府民の皆さんの理解をどのように深めていくかということを議論するワークショップ等を開催し、様々な年齢層の方々の意見を聞きながらチャレンジしていきたいと思っている。

（草郷 孝好 氏）

・自分の周りの環境を大事にする取組みは良いこと。小さな取組みでも大きな意味があるという意識や、SDGs を名前だけでなく中身を知って、どういったことを優先的にやれるのか考えることが大事
・中学生や高校生など若い人たちは教育の現場で SDGs を学んでいるが、教育課程を修了した方々に対しても、その点にどのように気づいてもらうかが大切と考える。
・授業でこうした話をすると、SDGs は若い世代だけでなく、シニア世代への働きかけも大事という学生の声が多い。なかなか意識転換をすることは難しいと思うが、有名人など、皆がよく知っている人に具体例として、率先して取組みをしてもらえれば、そこから学び・吸収し、思考が変わるかもしれない。
・この場合、単にやります宣言だけでなく、その人に張り付いて具体的な行動を見せていくことが重要。そういった方が多く見つかると良い。
・SDGs ウォッシュについては、若い方の方が敏感である。（就職先の選定などで）
・企業にとっては、何らかの問題を抱えているのが悪いのではなく、問題の放置が問題である。どのように改善するのかといった行動を、一社だけでなく、同じ目的の企業・団体でコミュニティを作って考える（取組む）ような仕掛けも面白いと思う。
・市民の声やビジネスからの声も集めていく必要があるので、セミナーやシンポジウムの実施も良いと思う。あわせて、対話が重要なので SDGs の基本的な概念を聞くだけではないようなワークショップも実施してはどうか。イベントやワークショップを実施する際は、事前にサーベイを行い、出てきた意見をもとに開催するようにしてはどうか。
・SDGs は各ゴールのつながりを意識することが重要。ゴールごとに縦割りで考えてしまうとウォッシュになってしまう。
・例えば、「貧困」という難しい言葉ではなく「人並の生活をしているか」といった平たい言葉に変えて、17 のゴールを 10 個ぐらいの柱に整理し、その中でどれが自分にとって重要か考えてもらい、それを中心に周りとの関係性を考えるとつながりが見えてくると思う。下川町ではそのようにして総合計画を作っていた。
・このように、企業とシニア世代の意識を変えていくことが重要と考える。特に、シニア世代は人口が多い。
・関西 NGO 協議会との連携や、市民等を入れた大阪 SDGs ネットワークの拡大版なども今後検討してはどうか。
・SDGs をキチンと理解してもらうためには、教材の充実も必要。動画を作ることも考えられるが、様々な機関が作成している映像を活用することも効果的と考える。また、市民レベルでは対話が効果的
・マッチングの際の手法としては「スラック（※）」というアプリを活用するのも効果的と考える。
　※メーリングリストの代わりになるとともに、参加者が任意に集まりをつくることができる。
・大阪府でも、VLR（Voluntary Local Review）に取組んでいくのも良いのでは。その前段として、中間の取りまとめのようなものを作成して公表してみてはどうか。

（事務局）

・今までは認知を上げるため、SDGs を知ってもらうことに注力していただが、その次のステップを考えていかなければならないと思っている。
・次年度は、SDGs の理解を深める取組みや、ステークホルダーをつなぎ合わせるという点について注力していきたい。また、企業の社員研修などへの協力を通じ、企業が取組みを始めるきっかけ作りなども行っていきたい。

（田和 正裕 氏）

・Q ネットのデータはとても重要なものと考える。関心のあるゴールには、府民の皆さんが身近な問題と感じられるゴールが挙げられおり、この調査結果で府民の関心が、浮き彫りになっていると思う。
・関心のあるゴールが具体的な活動となかなか結び付かないというのも課題。身近にできることはゴミの分別だが、貧困や格差、食べ物を無駄にしないという点で、フードバンクや子ども食堂等に協力しようという考えにまでは、まだまだ結びついていないように思う。そういったところまで、行政が上手く促していければ良いと思う。
・「誰一人取り残さない」という観点から考えたときに、誰が取り残されているのか、また、取り残されている方が身近にいるのか、ということから府民の方々に考えていただくと、少しずつ SDGs への取り組み方が見えてくるのかもしれない。
・大阪府の方向性には賛同する。SDGs への理解を深めるとともに、中小企業や府民による府内の取組みを増やすことが重要。あわせて、企業や市民が何を望んでいるかを把握した上で、事例の共有やマッチングの必要性が高いと考える。
・SDGs への携わりについて、府民の方々が具体的に考える機運を高めるには、一人ひとりが問題をきちんと認識し、自分事にしてもらうことが重要
・企業に対しては、企業そのものへのアプローチだけでなく、社員一人ひとりへのアプローチも行ってほしい。社員であっても、その前にひとりの市民でもある。一市民として自分に何ができるのか。また、仕事の中でどのような貢献ができるのかを考えることで、アイデアが生まれるのではないか。
・様々な取り組み事例を個人や団体と共有し、多くの方の共感を高め、具体的活動につなげていくというのが、行政ができる重要な役割なのではないか。また、交流会やセミナー等を実施し、参加者の方々との交流により新たなアイデアが出ることはたくさんあると思う。そのような場を作って提供することも大阪府の重要な役割
・また、高年齢の方への認知度は高まっているが、中長期的にみて、小・中・高校生に手厚く SDGs 教育を進めることにより、SDGs に取り組もうとする機運が地域にできてくると思う。学生の取組みから学ぶことも多く、素晴らしい活動も生まれているので、教育からのアプローチはとても大事
・子ども達を通じ、家庭内での会話が広がり取組みが生まれることもあると思うので、社会全体でこのような雰囲気や考え方を醸成することが重要。教育の部分にもフォーカスして取組むのも良いと思う。
・現在、大阪府が実施している小学生に向けた取組みや小学校への出張講義などの活動は、府内市町村にも広く共有することにより、市町村に対して良い刺激になると思う。
・関西 SDGs プラットフォームには複数の分科会があるが、関西 SDGs プラットフォームに参画する企業と自治体が、どのようなことで連携できるのかを議論するような分科会を立ち上げてはどうか。様々な事例を持ち寄り共有から始めて、具体的にマッチングをめざすのも良いと思う。

（事務局）

・教育関係では、これまでから出張授業に取り組んできた。以前は大学からの依頼が多かったが、今年度は、大学からの依頼に加え、小中高校からの出張講義の依頼が増えた。
・また、一部の小学校では、SDGs に取組む企業と連携しながら、授業を実施することも予定している。
・こうした活動については、大阪 SDGs ネットワークを活用し、府域の市町村にも共有を図りつつ、取組みを広げていきたいと考えている。
・大阪府では、府内市町村への取組支援や、自治体間の連携を促進しているが、こうした活動を関西 SDGs プラットフォームの枠組みの中で行うことも検討していきたい。

（羽根田 みやび 氏）

・私の SDGs 宣言プロジェクトに関しては、宣言しただけでなく、宣言した企業のマッチングが進み、宣言したメンバーが皆で新しいことを始められる場になっていくと良いと思う。そのようにすることで、この取組みがさらに輝きだすのではないか。
・一社でできないが、複数社であればできることもある。また、何をしたら良いか分からない人たちを引っ張っていくような、またそこにアイデアが生まれてくるような場として、この宣言プロジェクトを活かしていただきたい。
・皆で取組めることをアイデア募集してみるのはどうか。募集を通じ、企業内での議論の高まりや、アイデアが現実に形になることを全員が体感できるのではないか。規模感的には小さなことからでも良いと思う。
・吉本興業としても今年コロナで中止した SDGs イベントをコロナの状況を鑑みながら実施する予定。大阪府とはその場でも連携したいと思う。このようなフェスやイベントは、吉本興業のような民間が主導した方が府民にとっても分かりやすいと思う。一方、SDGs の普及に向け行政が主導するのは何かという点については、改めて一緒に考えさせてほしい。
・イベントは一過性のものになることが多い。例えばキャンペーン的な発信であれば長い目線で府民とコミュニケーションがとれるのではないか。大阪らしさも重要だと思う。
・我々としても、楽しいだけのイベントだけでなく、楽しみの中に皆さんの工夫やアイデア、未来に向けたものが注がれているような機会を充実させていきたいと考えている。
・大阪府から説明があったように、認知度の向上を踏まえ、次は理解を深めると行動に移行するという点は同意
・一方、SDGs の概念のもとマッチングを進め新たな取組みを生み出したいという点については、多くのステークホルダーが同じことを考えていると思うが、なかなか進まない所でもあると考える。マッチングへの期待を分かりやすく伝えるため、テーマを設定してはどうか。リアルな行動につながると思う。（まだ、誰も取組んでいないが、誰かがやらないといけないことを設定するなど）
・そのように生み出された取組みを広く知ってもらう活動については、吉本興業としても協力できると思う。
・SDGs の認知が向上した点を見ても言葉は身近になったと感じているが、具体的な行動にはまだまだつながっていないと思う。楽しみの中で未来への工夫を皆が体感できるようになれば素晴らしいと思う。
・吉本興業の中では、健康と福祉に関することや、住みますプロジェクトに代表される地域社会の創生、大学との連携などが、未来社会の創造につながっていると感じている。今後は、誰も取組んでいないが、誰かがやらないといけないことなどを見つけて、議論できたらと思う。

（事務局）

・マッチングの実施に向け、私の SDGs 宣言プロジェクトに参加する企業に対し、アンケートを実施し、マッチングに対する期待や、今後、どのようなことに取組んでいきたいのかといった意見の聴取を行っていきたいと思っている。
・宣言プロジェクトには多くの企業が参加してくれているので、この場を使い小さくても成果が見えるように検討していきたい。
・以上を踏まえつつ、次年度は、SDGs の理解を深める取組みや、ステークホルダーをつなぎ合わせるという点について注力していきたい。

（村上　芽　氏）

・府民の認知が高くなったことを踏まえた、次の方向性については納得。

・中小企業のアンケートについても、取組んでいない方々からの回答として、できれば取組みたいという声が多かったことには良かったと感じた。

・企業と NPO 法人をマッチングし、商店街の空き店舗を地域のふれあいの場にしていくなどの事例があったが、そういった繋がりにくいステークホルダー同士を繋ぐというのは、府の施策としてとても良い取組みだと思う。

・SDGs ウォッシュを避けるというのはとても重要。実際、SDGs を使ってちょっと目立ちたいだけではないかと思われる企業も出てきている。一方、これまでからキチンと取組んでこられた方々には、現状維持ではなくて、さらにどこを背伸びして取組みを広げるのか。という点をアドバイスさせていただくと良かったという反応が返ってくる。

・SDGs ウォッシュについては、これから SDGs に取組もうとしている企業に「ウォッシュに気をつけろ」と言うと、萎縮してしまうかもしれない。（萎縮させるのはもったいない。まずは応援してあげた方がよい。）

・ウォッシュ問題は当事者の認識も重要であるが、自治体や金融機関など、企業の取組みを支援する側の意識も重要だと考える。

・これから SDGs に取組む方に対しては、良い事例の紹介に加え、どんなに良い取組みでも、やり続けると悪いことも起こるという負の影響にも目を向けることや、改善意欲を持って悪くなってしまった点は改善していくことが必要であるという点を伝えていくことが大事。

・マッチングについては、以前、大量生産を得意とする企業に、作った後（廃棄やリサイクルなど）のことについて話をした時に、経営者の方から、そこまで考えが至っていなかったとの話があった。このように、企業がこれまで得意としてこなかった分野（商機）に気が付き、足りない部分をマッチングで補い合えるようになれば良いと思う。

・また、地域の情報やデータ（中でも眠っているデータ）を如何に価値のあるものにしていくのかという取組みも面白いと感じている。

・自治体には企業等にも有用なデータが多く存在すると考えるがあまり知られていないと感じている。例えば、大阪府の SDGs 未来都市計画にある、海洋プラスチックごみについて収集データをどのように計測し、分かったことをどのように訴求していくのかというところで、民間とのマッチング意識してもらえれば効果も倍増するのでは。

・プラスチックごみ等は、注目も高いのでこうしたデータを様々な場で使えるようにすると良いと思う。

（事務局）

・健康に良いと思われる商品が製造過程で環境に悪影響を及ぼすなど、良い行動と思われる活動が、他方面に悪影響を生じさせる場合もあるため、SDGs ウォッシュについては、経済・社会・環境の三側面を包括的に捉えながら考えてもらうよう呼び掛けていきたい。

・また、大阪 SDGs ネットワーク（市町村や経済界、金融機関などで構成）等の場を活用し、SDGs ウォッシュについて支援者側の理解も深めていきたい。

・SDGs 未来都市計画にも多くのデータを掲載しているが、行政が持つデータの有効活用については、関係部局と調整しつつ検討していきたい。

（以　上）